

	(開催日)	(講師)	(企画タイトル)	(参加者数)
—————1998年—————				
第1回	1月8日(木)	宇井純(沖縄大学教授、公害研究)	水俣病の教訓と今日の公害	44名
第2回	2月16日(月)	杉本栄子(水俣病患者、漁師)	水俣病との“つきあい”から生まれたもの	51名
第3回	3月16日(月)	石田雄(東京大学名誉教授、政治学)	水俣から社会科学は何を学ぶか	39名
第4回	4月9日(木)	崔洋一(映画監督)	映画「水俣病—その20年」を観る	59名
第5回	5月22日(金)	仲村昭一(水俣病患者、部落解放同盟支部長)	半生を語る—水俣病と部落差別から	47名
第6回	6月26日(金)	吉永利夫(水俣病センター相思社常務理事)	水俣病事件が水俣に残すもの	33名
第7回	7月23日(木)	西村肇(東京大学名誉教授、化学工学)	40年ぶりに判明した水俣病発生のメカニズム	48名
第8回	9月17日(木)	桑原史成(報道写真家)	自作を語る—水俣・原点から転生へ	42名
第9回	10月13日(火)	徳江倫明(日本リサイクル運動市民の会会長)	水俣を起点に食と農を考える	29名
第10回	11月7日(土)	最首悟(恵泉女子大学講師、現代思想)	世紀末日本にとっての水俣	30名
第11回	12月1日(火)	宮沢信雄(フリーアナウンサー、水俣病研究会)	なぜ国はチツソを止めなかったのか	25名
—————1999年—————				
第12回	1月28日(木)	野中ともよ(ジャーナリスト)	映画「わが街わが青春—石川さゆり水俣熱唱」を観る	35名
第13回	2月16日(火)	柳田耕一(環境コーディネーター)	水俣で学んだこと—現地で暮らした20年から	37名
第14回	3月26日(金)	津田敏秀(岡山大学医学部講師、衛生学)	水俣病の患者認定基準を検証する	27名
第15回	5月25日(火)	芥川仁(写真家)	スライドトーク『水俣・現存する風景』のころ	24名
第16回	6月23日(水)	色川大吉(東京経済大学名誉教授、近代民衆史)	私の水俣民衆史—いま水俣を見て	80名
第17回	7月21日(水)	—	患者・川本輝夫さんを偲んで映画「水俣—揆」を観る	26名
第18回	9月8日(水)	佐々木清登(水俣病患者連合会長)	“苦渋の選択”—政府解決案受諾をふりかえって	37名
第19回	10月21日(木)	飯島孝(岐阜経済大学教授、産業技術論)	チツソの技術と化学工業の発達をたどる	31名
第20回	11月26日(金)	森岡正博(大阪府立大学教授、哲学・現代思想)	生命学から水俣を考える	42名
第21回	12月15日(木)	谷洋一(アジアと水俣をむすぶ会)	アジアの環境汚染と水俣病	43名
—————2000年—————				
第22回	1月19日(水)	土本典昭(映画監督)	新作「回想・川本輝夫」を観る	57名
第23回	2月16日(水)	大治浩之輔(元・放送記者)	ドキュメンタリー「埋もれた報告」を観る	38名
第24回	3月7日(火)	—	映画「医学としての水俣病 臨床・疫学編」を観る	36名
第25回	5月16日(火)	松岡洋之助(元・水俣病を告発する会)	“水俣病を告発する会”の日々	30名
第26回	6月14日(水)	鶴田和仁(水俣病研究会、神経内科医)	入門・現代の水俣病医学	28名
第27回	9月19日(火)	大村トミエ(水俣病患者)	故郷・水俣を遠くはなれて	57名
第28回	10月20日(金)	高嶋伸欣(琉球大学教授、教育学)	水俣の授業実践から教育と国家を問う	43名
第29回	11月1日(水)	高峯武(熊本日日新聞社会部長)	記者がみた水俣病未認定患者問題の政治解決策	26名
第30回	12月6日(水)	大石芳野(写真家)	映画「水俣病—その30年」を観る	62名
—————2001年—————				
第31回	1月26日(金)	姜信子(作家)	開かれる記憶：水俣からたどる失郷民の東アジア	53名
第32回	2月15日(木)	小池征人(映画監督)	映画「水俣の甘夏」を観る	56名
第33回	5月25日(金)	宮本憲一(立命館大学名誉教授、日本環境会議代表)	日本公害史と水俣病	53名
第34回	6月22日(金)	—	水俣病記録映画「死民の道」「実録公調委」上映会	55名
第35回	7月17日(火)	小島麗逸(大東文化大学教授、経済学)	水俣地域経済循環の崩壊と水俣病闘争の意義	25名
第36回	9月4日(火)	塩田武史(写真家)	スライドトーク「患者さんと私の『水俣—深き淵より』」	45名
第37回	10月30日(火)	長谷川宏(元・第2次不知火海総合調査団、哲学)	哲学者の語る水俣病と今	29名
第38回	11月14日(水)	吉井正澄(水俣市長)	私と水俣市民にとっての水俣病	43名
第39回	12月12日(水)	—	映画「医学としての水俣病 資料・証言編」上映会	34名

	(開催日)	(講師)	(企画タイトル)	(参加者数)
2002年				
第40回	1月22日(火)	吉田司(ノンフィクション作家)	若い患者の世界と「下下戦記」	47名
第41回	2月27日(水)	栗原彬(水俣フォーラム代表、政治学)	水俣病にみる「人間の政治」	57名
第42回	3月20日(水)	是枝裕和(映画監督)	ドキュメンタリー作品「しかし…」を観る	77名
第43回	6月4日(火)	弘津敏男(水俣病センター相思社常務理事)	和解した患者と現在の水俣	30名
第44回	7月23日(火)	二宮正(熊本大学助手、解剖学)	既成の水俣病医学を疑う	30名
第45回	9月10日(火)	森枝卓士(写真家)	仕事のルーツー故郷・水俣とユージン・スミス	42名
第46回	10月17日(木)	杉本肇(水俣病患者家族、漁師)	“死の恐怖”との闘いー私と家族の水俣病43年	54名
第47回	11月19日(火)	—	映画「医学としての水俣病 病理・病像編」上映会	22名
第48回	12月19日(木)	鎌田慧(ルポライター)	現代日本の繁栄と公害ーさまざまな「水俣」から読み解く	51名
2003年				
第49回	1月23日(木)	山田真(小児科医)	私の医療の根っこー水俣・森永・子どもたちとともに	34名
第50回	2月20日(木)	香取直孝(映画監督)	映画「無事なる海ー水俣1982」上映会	24名
第51回	3月28日(金)	宇野重昭(島根大学学長、東アジア研究)	中国と水俣から近代を問うー私がみてきたこと	24名
第52回	5月27日(火)	船橋晴俊(法政大学教授、環境社会学)	水俣病放置の行政メカニズムを分析する	47名
第53回	6月12日(木)	日吉フミコ(水俣病市民会議会長)	私の水俣病患者支援の歩みから	50名
第54回	7月19日(土)	—	映画「水俣ー患者さんとその世界(完全版)」上映会	42名
第55回	8月7日(木)	高倉史朗(水俣病患者連盟事務局、ガイアみなまた)	未認定患者の運動と私の水俣暮らし	28名
第56回	10月2日(木)	小熊英二(慶応義塾大学助教授、歴史社会学)	水俣病を読みなおす	81名
第57回	11月26日(水)	川那部浩哉(琵琶湖博物館館長、生態学)	私にとっての水俣病と生態学	47名
第58回	12月12日(金)	—	映画「水俣の図・物語」上映会	19名
2004年				
第59回	3月17日(水)	村上雅通(熊本放送ディレクター)	テレビドキュメンタリー「水俣病 空白の病像」を制作者と見る	45名
第60回	5月12日(水)	原武千潮(水俣病患者、自動車整備業)	水俣から遠く離れてー“県外患者”の現実	27名
第61回	6月11日(金)	有馬澄雄(水俣病研究会、鍼灸師)	“水俣病の発見”“猫400号”と細川博士	58名
第62回	7月5日(月)	笠井賢一(能「不知火」演出家)	石牟礼道子新作能「不知火」を読む	47名
第63回	9月29日(水)	田口ランディ(作家)	改めて『苦海浄土ーわが水俣病』を読む	83名
第64回	10月13日(水)	建部明(弁護士)	水俣病と裁判ー謀匠裁判と待たせ賃訴訟から	29名
第65回	11月5日(金)	堀田静穂(看護師)	若き日の胎児性水俣病患者たち	30名
第66回	12月10日(金)	丸山定巳(熊本大学教授、社会学)	地域社会・水俣の亀裂と克服	42名
2005年				
第67回	1月26日(水)	最首悟(和光大学教授、現代思想)	8ミリ映画「怒れない世界」を見る	55名
第68回	2月25日(金)	土屋恵一郎(明治大学教授、能「不知火」制作者)	能「不知火」と私にとっての水俣	32名
第69回	3月31日(木)	辻信一(明治学院大学教授、文化人類学)	金じゃなきゃ、なんだー水俣からの問いとスローライフ	59名
第70回	6月24日(金)	三砂ちづる(津田塾大学教授、疫学)	“女性のからだ”から近代化と水俣を考える	57名
第71回	9月13日(火)	花崎皋平(思想家)	近現代の民衆思想の中の水俣	57名
第72回	10月12日(水)	阿部泰隆(中央大学教授、行政法)	水俣病関連訴訟最高裁判決を読む	50名
第73回	11月1日(火)	大治浩之輔(元・放送記者)	報道番組「空白の20年ー水俣病刑事追跡の軌跡」を制作者と観る	46名
第74回	12月7日(水)	赤木洋勝(元・国立水俣病総合研究センター国際総合研究部長)	水俣の経験を世界に生かす高感度水銀分析	56名
2006年				
第75回	1月27日(金)	甲野善紀(武術家)	身体の近代ー水俣と武術をつないで	98名
第76回	2月23日(木)	青山俊介(環境コンサルタント、エックス都市研究所)	水俣の巨大産廃処分場計画と私の水俣経験	39名
第77回	6月16日(金)	丸山徳次(龍谷大学教授、哲学・倫理学)	「鏡」としての水俣病ー水俣病と／の現代	36名
第78回	7月24日(月)	高橋昇(ガイアみなまた)	俺の好きな甘夏、俺の好きな患者	31名
第79回	10月17日(火)	内田雄造(東洋大学教授、都市工学)	患者を苦しめた町からの脱皮ー都市・水俣の歴史と課題	21名
第80回	12月12日(火)	生駒秀夫(水俣病患者)	初期発病者が語る私の水俣病48年	35名

	(開催日)	(講師)	(企画タイトル)	(参加者数)
—————2007年—————				
第81回	1月26日(金)	あん・まくどなるど(宮城大学助教授、カナダ水俣病)	カナダ先住民の苦難と水俣病	35名
第82回	2月16日(金)	鬼頭秀一(東京大学大学院教授、環境倫理学)	環境という価値から再考する「水俣」	51名
第83回	4月27日(金)	佐野真一(ノンフィクション作家)	マスメディアの退廃と現代—忘却される「水俣」たち	71名
第84回	5月29日(火)	板井八重子(内科医)	水俣病の母たちを診つづけて—生まれ得なかった生命の記録	67名
第85回	6月21日(木)	大澤忠夫(反農薬水俣袋地区生産者連合事務局)	身体でぶつかった水俣暮らし30年	30名
第86回	10月16日(火)	藤原新也(写真家)	風土と人間—印度・東京・九州、旅の中から	53名
第87回	11月17日(土)	緒方正実(水俣病患者)	私が問い続けた10年—行政に“人”を探して	67名
第88回	12月14日(金)	中村桂子(JT生命誌研究館館長)	生きものの感覚の蘇生—生命誌と水俣から	47名
—————2008年—————				
第89回	1月23日(水)	土井たか子(元・衆議院議長)	私を振り返って—憲法から水俣まで	119名
第90回	2月26日(火)	栗原彬(水俣フォーラム代表、政治学)	水俣病テレビドキュメントの秀作を見る	40名
第91回	7月8日(火)	川村湊(法政大学教授、文芸評論家)	石牟礼道子の文学を読む	30名
第92回	10月15日(水)	畠山武道(上智大学大学院教授、環境法)	水俣病と国—判決文にみる行政の責任	31名
—————2009年—————				
第93回	3月12日(木)	高木隆太郎(元・青林舎代表、映画プロデューサー)	映画をつくらせた“水俣病の力”—プロデューサー回想70-87	32名
第94回	7月3日(金)	川本愛一郎(患者家族、作業療法士)	水俣病患者・川本輝夫を父として	54名
—————2010年—————				
第95回	12月3日(金)	佐高信(経済評論家)	水俣病とある官僚の死	104名
—————2011年—————				
第96回	1月27日(木)	花田昌宣(熊本学園大学教授、社会政策論)	水俣病事件を視る眼—水俣の内部と外部	28名
第97回	7月13日(水)	牧口敏孝(元・熊本放送記者)	熊本放送の水俣病テレビドキュメンタリーを制作者と観る	60名
第98回	11月30日(水)	鈴木一誌(ブックデザイナー、映画批評家)	“不可視とのたたかい”—土本典昭の「水俣」から	33名
—————2012年—————				
第99回	8月24日(金)	上田紀行(東京工業大学教授、文化人類学)	人は何のために生きるか—水俣・福島の現代に	49名
第100回	8月28日(火)	吉永理巳子(水俣病患者)	語れなかった水俣病の父を力として	40名
第101回	8月31日(金)	山口紀洋(弁護士)	水俣病患者側弁護士40年	29名
—————2013年—————				
第102回	8月29日(木)	市川敏明(アートディレクター)	水俣病の広報デザインを考える	22名
第103回	10月1日(火)	谷洋一(水俣病被害者互助会事務局)	水銀条約を現地水俣から問う	38名
第104回	12月17日(火)	潮谷義子(元・熊本県知事)	水俣病と私—熊本県知事回顧	52名
—————2014年—————				
第105回	2月27日(木)	山田真(小児科医)	繰り返される棄民—水俣の苦悩、福島の苦悩	63名
第106回	12月18日(木)	若松英輔(批評家、思想家)	石牟礼道子の詩学—『苦海浄土』と沈黙の語り手	88名
—————2015年—————				
第107回	2月9日(月)	森枝敏郎(元・熊本県環境局長)	元・熊本県行政官が語る水俣病現代史の転換点	38名
第108回	9月24日(木)	中村雄幸(鮮魚商)	魚屋が見た水俣の海と人	53名
第109回	11月27日(金)	竹田茂夫(経済学者)	水俣・福島と東京—構造的暴力に抗する論理	56名
—————2016年—————				
第110回	1月20日(水)	岡本達明(民衆史)	『水俣病の民衆史』エッセンス	88名
—————2017年—————				
第111回	2月24日(金)	黒田淑子(ガイアみなまた)	水俣暮らしの日々—もう一つの学びの回路	64名

計5070名

・水俣展や水俣病記念講演会などの開催月、および夏休みとして8月または9月は休講。2008年度より隔月開催。

・参加者数の中には、講師つきそいや開催スタッフなどを含まず、部分参加者や報道関係者、取材者など参加費を徴収しない者も含む。